



コラム♪ 心理相談員からのメッセージ♪

— 子どもの行動には発達上の意味と理由があります！ —



引き出しの中のものを次から次へと全部出してしまいます…

■ “したい” 気持ち（自主性、意欲）が、めばえてきています！

この時期は“したい”を叶えてあげて十分満足させてあげることが大切です。“引き出し”以外の同じことが楽しめるもの（かごの中のタオルやおもちゃを出すなど）に誘ってあげましょう。同じことを熱心に繰り返すことで手や指が上手に使えるようになります。

1歳ごろ



ママ以外はダメ！おじいちゃんやおばあちゃんでも大泣きしてしまいます…

■ “人見知り” は脳が発達している証拠！ 記憶力、認知力、好奇心が育っています！

いつも一緒にいる人とそうでない人を見分ける力がついてきたということです。視線をそらせたり、激しく泣いたりするのは、興味はあるけど怖いからです。“好奇心の強い子は人見知りが激しくなる傾向がある”という研究結果もあります。ママが周囲の人と親しく関わる様子を見て、“大丈夫”を感じさせてあげましょう。

1歳半ごろ



イヤイヤと何でも反抗されて、ほとんど疲れてしまいます…

■ イヤイヤは反抗やわがままではありません！ 自我のめばえや自我の拡大によるものです ■ 気持ちを受け止められることで、自分の気持ちと向き合い、感情のコントロールを学びます

この時期のイヤイヤの気持ちを受け止めてあげることは、甘やかしにはなりません。本当にダメなことだけ一貫してダメと伝えましょう。思い通りにならない経験から、他人にも自分と同じように意図があることを感覚的に少しずつ理解していきます。

2歳～
3歳ごろ



自由に動きまわってじっとしていません！

■ 行動範囲が自由になってわくわくがいっぱい！ 好奇心が高まります ■ 子どもの発見を一緒に楽しんであげることで、共感する気持ちが育ちます

“一人歩き”ができるようになると手の届く世界が、ぐーんと広がります。いろんなものを発見しワクワクする気持ちの高まりは言葉の育ちにもつながります。



一人でできないことを自分でやりたがって手伝うと大泣きして怒ります！

■ 自主性の芽を大切に！たとえ上手にできなくても挑戦できたという経験が大切です ■ この時期は、『できる自分になりたい』そんな自分を認めてもらいたい気持ちが強くなります

時間に余裕がある時は、ある程度自分でさせてあげて見守りましょう。時間に余裕がない時も可能な範囲でちょっとだけさせてあげて、挑戦できたことをしっかりほめてあげたほうが、結局はグズることなく、早く納得してくれるかもしれません。子どもが自分でやりたがる時期に入ったなと感じたら、大人が時間に余裕をもてるよう心がけることが大切です。また、この時期は“できる—できない” “かっこいい—かっこ悪い” など、対の関係がわかるようになる時期です。この時期にできない自分を感じすぎると、苦手意識、挑戦への尻込みにつながってしまいます。

4歳～
5歳ごろ



とっても内弁慶なうちの子。私の後ろに隠れてモジモジ…挨拶ができません

■ 「××だけれども〇〇する」(自制心)が育ち始め、決まりやルールを守れるようになってきます ■ 言いたい気持ちはあるけれど一歩が踏み出せない気持ち(心の中の葛藤)をわかってあげましょう 無理に言わせようとするのは逆効果！親がすすんで挨拶する様子を見せてあげましょう。“挨拶できたことをほめられる” “挨拶すると気持ち良い” という経験を重ねることで自然にできるようになるでしょう。



思い通りにならないと口答えをしたり、かんしゃくをおこすことに困っています…

■ 自分の言葉で自分の気持ちが言えるようになる年齢ですが、まだ上手く表現ができない段階です ■ あふれてくる感情のコントロールができなくて反抗的な言葉づかいや態度になってしまいます

口答えやかんしゃくを頭ごなしに感情的に叱るのは避けましょう。まずはクールダウンさせてから、なぜかんしゃくをおこしたのかをゆっくり整理してあげましょう。人の感情に関心を持ち始める時期なので、積極的にいろんな気持ちを言葉にして伝えてあげることが必要です。

大人にとって『いつになったらおさまるの!』と思っている子どもの行動ひとつひとつに発達上の大切な意味や理由があります。大人が成長のみちすじを知り、イライラを爆発させることなく『これも成長の過程!』と前向きに温かく見守ってあげることが、子どもの生きる力の育ちへの手助けとなります。

